

7月10日（日）投票に関するアンケート

質問1. あなたは今回の選挙は、投票しましたか？

( 67% ) A. 投票した ( 33% ) B. 投票しなかった  
(実数：263名中176人) (実数：263名中87人)

(A. を選んだ人は→質問2. へ進んで下さい。 B. を選んだ人は→質問3. へ進んで下さい。)

質問2. 「投票した」理由を教えてください。(該当する項目に複数OK)

( 52.8% ) 国民の義務として  
( 60.8% ) 選挙権が与えられたから  
( 9.7% ) 支持する政党があったから  
( 4.0% ) 支持する候補者がいたから  
( 5.1% ) 支持するマニフェスト（内容）があったから  
( 27.8% ) 親や兄弟姉妹、親戚の進めがあったから  
( 12.5% ) 特別な理由はない  
( 2.8% ) その他

→質問4. へ

質問3. 「投票しなかった」理由を教えてください。(該当する項目に複数OK)

( 5.7% ) 投票日を知らなかった  
( 29.9% ) 投票所入場券が手元になかった  
( 43.7% ) 投票する時間がなかった  
( 8.0% ) 投票する方法を知らなかった  
( 16.1% ) (そもそも) 誰に投票すればよいのか分からなかった  
( 9.2% ) 考えた結果、支持する政党・候補者・政策がなかった  
( 14.9% ) 特別な理由はない  
( 11.5% ) その他

→質問4. へ

質問4. 20歳代の投票率の低下が社会問題視されていますが、あなたは、なぜだと思いますか？

質問4. 20歳代の投票率の低下が社会問題視されていますが、あなたは、  
なぜだと思いますか？

- ・高齢者の意見だけになる（意見が多く反映）
- ・政治に対する思いの低下（政治について理解があまりない）
- ・「皆が行ってない」とニュースで多く言う「皆が行かないなら私も行かない」となる
- ・若者の興味をひかない
- ・若い人向けの政策が少ない
- ・投票に行くのが面倒と思う人が多い
- ・自分が投票した選挙の結果に自分の考えが反映されているという実感がわからない
- ・世間が若者に意見を求めている
- ・投票への意識が低い
- ・そもそも30代40代の親の投票率も少ないので今の20代も低くなる
- ・信頼できる候補者がみえない
- ・最近の政治家のお金の問題で不信感が募っている
- ・他人が投票するので自分が投票しなくても良いと思っている
- ・「前も行かなかったから今回もいや！」という思いの繰り返し
- ・マニフェストが若者向けではなく高齢者向け
- ・家庭内で政治の話をあまりしない
- ・まだ成人したばかりで社会のことをあまり知らないため、政治のことに興味関心が薄い
- ・投票権はあるけど、政治についてまだわかっていない
- ・日本の政治問題にまだ興味を持ってなく、支えていく準備ができていない
- ・今の日本に不満がなく生活できている
- ・政治の内容など難しいものと考えてしまう
- ・実際、お金や生活に困っていないのでこのままでもいいと思っている
- ・自分には関係ないと思っている人が多い
- ・老人にこびている政治家がほとんど
- ・仕事が手いっぱい忙しかったりしている
- ・学校で国や地方自治体の選挙に参加する仕方や意義を教わってこなかった
- ・立候補者について知らない
- ・誰が誰だか分からない
- ・自分の生活との関係を理解していない
- ・「投票してもどうせ何も変わらないではないか」と思う若者が増えてきている
- ・世代的に責任感がない
- ・政治家は投票してくれる高齢者が得をする政策を作っていくのでその悪循環によるもの
- ・支持する政党、政策がなかった

- ・ニュースを見る機会が減った
- ・みんな他人事
- ・政治に関心が薄い年代
- ・一票の力を弱いとみている
- ・行っている時間がない
- ・普通に面倒くさい
- ・誰を投票するのか分からない（誰に投票していいのか）
- ・なかなか政治について考える時がない
- ・政治自体がとても難しい
- ・みんな言っていることが同じに聞こえてしまう
- ・政治家が政治家の意見だけで国を変えようとしている
- ・若者がこれからの社会を担うという気持ちを持っている人が少ない
- ・政治が我々に何かをするのを待つより、個人が努力することで改善できることが多い
- ・政策を知る機会が少ない。また、政策を調べようとする気持ちも育っていない
- ・「家庭」や「仕事」での「責任」を取る場面が少ない
- ・地元になかったり、帰ることが困難だと思う
- ・政治に関する教育が全く不十分
- ・若年層の考えの幼稚化
- ・人口の中で若年層がそもそも少数のため、価値がないと自分たちで思っている
- ・政治は変わらないというあきらめ、行くことによって得られるメリットがないと思っ  
ている
- ・若者自身が自分たちの将来をきちんと考えられていない（自分たちの将来に関心がない）
- ・「勉強だから」程度にしか政治を学んでいない年齢が、選挙公約や専門用語を聞いても理  
解できる部分が少ない
- ・社会経験が少ないので、誰かがやってくれるという意識がある
- ・選挙活動している場所に遭遇しない

文責：尻無浜博幸（松本大学）

2016年8月26日